Historical Materials about the Regional Accounts in Kaga Domain (III)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-08-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: UEDA, Hisao メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00066976

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



加賀藩領の万雑関係史料（三）

上田長生

紹介にあたって

前号に引き続いて、本号では加賀藩領の地域的入用たる万雑について、嘉永七年（一八五四）「諸郡万雑方取極改帳奉窺帳」と安政二年（一八五五）「諸郡万雑方取極重帳奉窺帳」を紹介する。

加賀藩における万雑の全領的な改革は、天保一一年（一八四〇）に砺波郡十村達の提起により始まった。しかし、全領的に統一を目指した改革は村落レベルでの混乱を生んだ。また、おそらくそれも一因となって、藩側も改革が不十分であったと捉えていた。(1)

こうした認識を背景に、藩の指示で再度始まったのが嘉永六年（一八五三）からの嘉永・安政期の改革である。前号で紹介した史料10のように、藩は各十村組の組万雑の廃止を命じたため、それまで組万雑として計上していた経費をどのように郡万雑と村万雑に振り分けるか、あるいは削減するかが十村達の喫緊の課題となった。本号に掲載するのは、こうした改革の到達点ともいうべき加賀・能登・越中三か国十村の伺書とそれへの藩の返答である。

史料12「諸郡万雑方取極改帳奉窺帳」には、十村達の下僚である番代・番代手伝・手代・組走の給銀や、郡・組レベルでの紙・筆・墨・灯油・蝋燭・炭等の諸経費について、郡毎の事情に即して詳細に定められており、十村達による郡・組の支配・運営の実態を探る上でも貴重である。各箇条には各郡による下札と、奉行による付札も写し込まれている。

また、加賀三郡・能登四郡・越中三郡の国・郡毎に特有の経費も書き上げられており、加賀藩研究において注意すべき郡毎の性格の相違(2)についても、その一端を知ることができる。

史料13「諸郡万雑方取極重帳奉窺帳」は、史料12でのやりとりを踏まえ、さらに翌年三か国十村達が改作奉行・郡奉行に伺ったものである、各郡による補足の付札と奉行側の付札も書き込まれている。

前号でも述べたように、嘉永・安政期の万雑改革はこれまでの加賀藩研究でほとんど分析が行われていない。本号での紹介をふまえて、今後、幕末の万雑改革の全体像を解明していく予定である。

「諸郡万雑方取極改帳奉窺帳」「諸郡万雑方取極重帳奉窺帳」は、今回底本とした石川県立歴史博物館保管の新田家文書のほか、現在のところ、宝達志水町教育委員会所蔵の十村岡部家文書、金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵の武部文庫などでそれぞれ所蔵が確認できる。翻刻にあたっては、下札・付札の位置や文言の遺漏の確認な

どで岡部家文書本・武部文庫本も適宜参照した。

また、当然ながら、原本には付箋・下札が付されていたと考えられるが、現存する諸本では、いずれも元の位置に近い部分に朱書で書き込まれている。特に、「諸郡万雑方取極改而奉窺帳」の付札は、欄外・行間に書き込まれているため、そのままの形で翻刻することが困難であった。従って、「※数字」で書込箇所を示した上で、当該条項の末尾に翻刻を掲げた。

なお、人名・地名を除いて旧字体は新字体に改めたが、異体字はそのまま残した。また、史料末尾の差出人部分の十村連名はいずれも二頁に渉るが、左の順番で二段組で表記した。

一頁目　1　2　3
　　4　5　6
二頁目　7　8　9
　　10　11　12

注

（1）天保期の万雑改革の経過・内容は、拙稿「加賀藩天保期の地域的入用の改革」（『加能地域史』第七七号、二〇二〇年）で明らかにした。

（2）郡毎の性格の相違への着目の重要性は、拙稿「十村御用留論―近世中後期の越中国砺波郡十村の郡中支配・運営―」（岩田書院、二〇二〇年）で指摘した。

12、嘉永七年「諸郡万雑方取極改而奉窺帳」（石川県立歴史博物館・新田家文書一〇七二）

（表紙）

嘉永七年十一月

諸郡万雑方取極改而奉窺帳

乾多

一番代給銀之事

但壱郡三貫目宛、此内ニ而手伝給銀番代ゟ可相渡、尤壱人五百目ニ不可過旨、去ゝ年十二月被仰渡候

弐貫目
能美郡　但此内ニ而料紙・筆・筆代相弁申候
凡三百目斗

（朱書）「下ケ札」
外ニ弐百目　手伝弐人江増願
但御郡所御用等格別御用繁ニ相勤、其外改方出人等悉皆手伝ニ而相弁申候間、増方奉願候
能美郡」

（朱書）「下ケ札」
石川郡　壱貫五百目

五百目　御増奉願候
外三百目　手伝三人江増願
〆八百目　番代給銀御増奉願候
但番代江五百目御増被下候而、都合弐貫目ニ相成、外御郡与同様ニ相成申候、然処遠郡与者遠御郡所御座候ニ付、格別御用繁ニ相勤申候
石川郡」

河北郡　弐貫百五拾目
（朱書）「下ケ札
河北郡之義、寅前御取極三貫目之外弐百目御増被下、其内弐貫目番代江相渡、残り壱貫弐百目手伝両人江六百目宛相渡申度奉存候
河北郡」

口郡　弐貫目
（朱書）「下ケ札
口郡之義ハ、御改方御役所等出人多、其上御郡所向之義も御用多ニ而、時ニ寄御郡ゟ手代可指出御用筋ニも、格別入組も無之義ハ番代手伝ニ而相弁候義も御座候、尤以前与ハ格別相減居候事ニ△（御坐ヘ）候間、手伝両人江可相渡分、番代給銀弐百目御増被下候様仕度奉願候
口　郡」

奥郡　弐貫目
（朱書）「下ケ札
奥郡之義ハ遠郡之事故、両御役所御詮義物有之候而も、手代罷越候義出来不申、万端番代并手伝ニ而相弁申候、此外改方出人（其）之義ハ悉皆手伝両人ニ而相弁申候間、手伝壱人江百目宛、都合（分）弐百目御増方奉願候
奥　郡」

砺波郡　弐貫百四拾目
（朱書）「下ケ札
此番代給銀弐貫目ゟ以上ニ相成候義ハ、手伝両人之内年若之者罷在候ニ付、手伝五百目以下之者有之、此（如）ニ相成候得共、早竟手伝両人とも手馴候得者、五百目宛可相渡、左候得者番代給銀ハいつれ三貫目与被仰付置可被下候、左候得者番代当り外同様弐貫目ニ相成申候
砺波郡」

射水郡　弐貫目
新川郡　壱貫五百目
（朱書）「下ケ札
新川郡之義、上下之取扱も有之、御用多ニ御座候故、手伝三人罷在、番代手取給銀壱貫五百目ニ相成申候間、此以後五百目相増、手伝渡り共三貫五百目相渡、番代手取弐貫目ニ相成候様仕度奉存候
新川郡」

一番代手伝之者給銀之事
但番代給銀之内を以相渡申候
能美郡　五百目　弥吉
五百目　伊六
〆壱貫目
（朱書）「下ケ札
壱人江百目宛、都合弐百目御増奉願候

但前段奉願候通り、番代給銀御増被下、番代ゟ手伝江
相渡候様被仰付可被下候　　能美郡」

石川郡　五百目　藤吉
五百目　庄平
五百目　佐六
〆壱貫五百目

（朱書）「下ケ札
壱人江百目宛、都合三百目御増奉願候
但五百目ニ不可過旨被仰渡御座候得共、遠郡与ハ遖御
郡所御座候ニ付、格別繁多ニ相勤申候　石川郡」

河北郡　三百五拾目　孫七
弐百五拾目　次郎松
弐百五拾目　𠮷十郎
〆八百五拾目

（朱書）「下ケ札
河北郡手伝年若之者有之、如斯ニ相渡来候得共、当時壱人六
百目宛ニ而両人召仕申度奉存候　河北郡
河北郡手伝是迄年若之者も召遣候得共、当時ニ而者石川同様
番代給銀之内壱人六百目宛相渡度奉願候　河北郡」

口郡　五百目　傳兵衛
五百目　徳兵衛
〆壱貫目

（朱書）「下ケ札
手伝之義、番代ヶ条ニ奉願候通り、弐人江弐百目御増奉願候
口　郡」

奥郡　五百目　幸助
五百目　万次郎
〆壱貫目

（朱書）「下ケ札
手伝之義ハ、番代之ヶ條ニ奉願候通り、壱人ニ百目宛、両人
ニ而都合弐百目番代江御増被下、番代ゟ手伝江相渡候様被仰
付可被下候　奥　郡」

砺波郡　五百目　清吉
三百六拾目　清八　同人義去年病死仕候、当
〆八百六拾目　時新太郎相勤申候

（朱書）「下ケ札
当時手伝新太郎義者、年若之者故三百六拾目ニ而相弁居候得
共、壱人向之用立申候時者五百目相渡可申義ニ御座候可被下
候　（閣置）　砺波郡」

射水郡　五百目　清六
五百目　弥一郎
〆壱貫目

新川郡　五百目　吉蔵
五百目　幸蔵
五百目　六蔵
〆壱貫五百目

（朱書）「御付札　番代給銀、此内ニ而手伝
給銀出之
諸郡とも番代給銀手取弐貫目宛
但能美郡ハ料紙・筆・墨代弐貫目之内ニ而弁極
壱人
加州・能州手伝六百目宛

越中手伝壱人五百目宛
依而　能美郡　弐貫目　番代手取
但料紙・筆・墨代、此内ニ而弁候
壱貫弐百目　手伝両人
〆三貫弐百目　給銀高

石川郡　河北郡
弐貫目　番代手取　弐貫目　番代手取
壱貫八百目　手伝三人　壱貫弐百目　手伝両人
〆三貫八百目　給銀高　〆三貫弐百目　給銀高

能劭口郡　奥郡
弐貫目　番代手取　弐貫目　番代手取
壱貫弐百目　手伝両人　壱貫弐百目　手伝両人
〆三貫弐百目　給銀高　〆三貫弐百目　給銀高

越中砺波郡　射水郡
弐貫目　番代手取　弐貫目　番代手取
壱貫目　手伝両人　壱貫目　手伝両人
〆三貫目　〆三貫目　給銀高

但手伝幼少者有之節、本高ゟ減渡候分残り番代受納可致事

新川郡
弐貫目　番代手取
壱貫五百目　手伝三人
〆三貫五百目　給銀高

右之通承届」

一手代給銀之事
但壱組ニ付左之通ニ而、此外物書雇候分身出ニ仕候
(朱書)「御付札
手代給銀之内主人
身出之銀高」

能美郡
九百目　壱人
七百五拾目　壱人
五百目　壱人
(朱書)「加州三郡五百目充
能越者　伺書之通り」
〆弐貫百五拾目
但壱組ゟ壱貫五百目可取立旨被仰渡候ニ付、残り六百五拾目主人ゟ相渡申候

(朱書)「下ケ札
壱貫目　壱番手代
八百目　弐番手代
七百目　三番手代
〆弐貫五百目
内弐貫百目　御郡万雑ゟ取立候様奉願候
四百目　主人ゟ相渡候義、石川・河北同様奉願候
能美郡」

石川郡
壱貫目　壱人
壱貫目　壱人
八百目　壱人
〆弐貫八百目
但壱組ゟ壱貫五百目可取立旨被仰渡候ニ付、残壱貫三百目主人ヨリ相渡申候

「下ケ札」(朱書)
主人ゟ壱貫三百目相渡候義難義仕候間、此内九百目組万雑ゟ取立候様奉願候、四百目主人ゟ相渡可申候　石川郡」

河北郡　右同断
但右同断

「下ケ札」(朱書)
御増方之義、石川郡同様奉願候　河北郡」

口　郡　定手代弐人
壱貫七百五拾目　雇手代時〻
弐人或ハ三人
但壱組ゟ壱貫五百目可取立旨被仰渡候得共、重而一作壱貫三百目宛可取立旨被仰渡候ニ付、残四百五拾目宛主人ゟ相渡申候

「下ケ札」(朱書)
以来本文之通り被仰付可被下候　口郡
奥郡」

奥　郡　七百目　壱人
六百目　壱人
五百目　壱人
〆壱貫八百目
但口郡同様被仰渡候ニ付、壱貫三百目万雑ゟ取立、残り五百目主人ゟ相渡申候

砺波郡　壱貫百五拾目三人江見斗相渡申候
但壱組ゟ壱貫五百目可取立旨被仰渡候得共、重而六百目可取立旨被仰渡候ニ付、五百五拾目主人ゟ相渡申候

「下ケ札」(朱書)
此手代給銀石川・河北同様主人ゟ四百目指出、外ニ壱貫三百目十村壱人万雑ゟ手代給銀取立申度、左候得者左之通り相渡申度奉願存候
一七百目　手代壱人
一六百目　手代壱人
一四百目　手代壱人
合壱貫七百目　砺波郡」

射水郡　七百目　壱人
六百目　壱人
五百目　壱人
〆壱貫八百目
但壱組ゟ壱貫五百目可取立旨被仰渡候得共、重而今一往詮義仕可申上旨被仰渡候ニ付置、去暮壱貫五百目取立申候

「下ケ札」(朱書)
壱貫三百目十村壱人江取立申度奉存候、五百目引足可申義ニ御座候　射水郡」

新川郡　右同断
但去暮壱貫三百目宛取立申候外、布施山開才許手代三百目

「下ケ札」(朱書)
布施山開之外、右同断ニ御座候　新川郡」

一無組御扶持人ニ而組才許無之者手代給銀之事

奥郡　七百目　壱人
　　六百目　壱人
　　弐百目　雇壱人

（朱書）「御付札　無組御扶持人組才許無之者手代給銀、諸郡とも此役之者有之時、本文之通　〃壱貫五百目　内壱貫目　御郡万雑　五百目　主人ゟ相渡りたるへき事」

但外御郡ニ無之、当三月以後無御座候

一首座御扶持人手代給銀之事

能美郡　五百目

（朱書）「御付札　石川・河北同様ニ而者有之間敷哉」

石川郡　壱貫目　但手張候節、書物雇候分主人身出（下上）
河北郡　壱貫目　但右同断
口　郡　五百目
奥　郡　無御座候

（朱書）「御付札奥郡　当年三月組才許被仰渡候故、三月後日割之外無組御扶持人之手代ハ入用ニ無御座候、組持之首座方手代壱人　組持之者首坐たる時ハ五百目相渡申度奉存候　奥郡」

（朱書）「御付札　砺波郡　五百目
射水郡　五百目

新川上下　上新川　三五百目
四百目充　下新川　三百目
承届」　〃

（朱書）「下ケ札　以後百目相増、四百目宛御郡余荷ゟ相渡候義ニ被成下度奉願候　上下新川」

一諸郡打銀物書料之事

射水郡番代清助相兼候料銀弐百目

一首座之外御扶持人手代給銀之事

但去年之処御願申上候得共、御治定無御座候

（朱書）「御付札　諸郡とも弐百五拾目宛可取立事」

能美郡　無御座候
石川郡　同断
河北郡　同断
口　郡　同断
奥　郡　同断
砺波郡　同断
射水郡　弐百五拾目宛取立申候
新川郡　弐百目宛取立申候

（朱書）「下ケ札　弐百五拾目宛御渡被下候様仕度奉存候　諸郡」

一組走給銀之事

壱組ニ付左之通

能美郡　六拾目
　外御扶持人之分拾匁増

（朱書）「下ケ札」

組走之義、以前ハ百八拾目ゟ弐百五拾目斗、組ニ寄三百目斗相渡申組も御座候処、去暮被仰渡ニ付当時本文之通相渡候得共、組走り之義村ゟ役人寄等之節、御用所江相詰居、且組才許ゟ村ゟ江触渡候紙面等都而状口村ゟ江持届申義ニ而、多分詰切罷在申程ニ御座候間、以来組走り給銀一ヶ年百四拾目宛御渡被下候様奉願候
　但御扶持人首座召連候分ハ三拾五匁増、御扶持人召連候分者弐拾目増ニ仕度奉存候　能美郡」

石川郡　六拾目
　外御郡与勤向相遠仕候

河北郡　六拾目
　右同断

口　郡　拾五貫文
　但去年之所、在来ニ寄如此ニ相渡申候

（朱書）「下ケ札」

組番徒与相唱、前ゟ料銀嵩ニ相成居、去年之処在来通相心得候様被仰渡候得共、在来ゟも相減候義申上、壱組拾五貫文相渡置候、当年ゟ之処、壱組五拾目御扶持人分者七拾目ニ仕候様、去暮も被仰渡候得共、年分（この空白、岡部家文書本では「詰」）居候者ニ而、射水・新川同（川と同の間に岡部家文書本では「組走料銭ゟ相減得不申義、兼而申上候通ニ御坐候間、射水・新川とある）候分ハ弐拾目増ニ仕度奉存候　口　郡」

奥　郡　弐拾貫文
　外無組御扶持人分五拾目

（朱書）「下ケ札」

奥郡走り給銀之義、前ゟ壱組弐拾貫文ゟ三拾貫文相渡候へ共、以来ハ弐拾貫文相渡申度旨、去年七月御達申上候処、壱組五拾目相渡候様被仰渡、重而去年之義ハ在来通り相心得、当春ゟ先達而被仰渡候通り可相心得旨被仰渡候得共、去年之所ハ弐拾貫文相渡置申候、元来石川・河北与ハ勤振遠申候、射水郡・新川郡同様拾四貫文ニ取極相渡申度、且首座御扶持人三拾五匁相増、外御扶持人之分ハ、弐拾目増仕度奉存候、無組御扶持人之走りハ当年入用無御座候　奥　郡」

砺波郡　五拾目
　外御扶持人分弐拾目

（朱書）「下ケ札」

此走り給銀百四拾目ニ仕度奉存候
　但御扶持人首座召遣候分ハ三拾五匁増、御扶持人召遣候分ハ弐拾目増ニ仕度奉存候　砺波郡」

射水郡　拾四貫文

（朱書）「下ケ札」

拾四貫文走り給銀渡方、去暮御聞届ニ御座候、首座御扶持人方走り三拾五匁増渡方等右同断　射水郡」

新川郡　拾四貫文

（朱書）「下ケ札」

射水郡同様奉願候　新川郡

御付札　走給銀之事

能美郡　百四拾目

口　郡　　拾四貫文
奥　郡　　拾四貫文
砺波郡　　百四拾目
射水郡　　拾四貫文
新川郡　　拾四貫文
〆
外ニ石川・河北之分
　諸郡とも
　首座御扶持人ハ　三拾五匁増
　御扶持人　　弐拾目宛増
〆
　石川郡
　河北郡　ハ六拾目宛　」

一料紙・筆・墨之事
　能美郡　七組料紙代弐貫百八拾目、壱組弐百五拾目ゟ三百五拾目迄ニ而定銀ニ相立申候、筆・墨代ハ才許身出ニ仕候、御郡江附候分首座御扶持人江三拾目請取、其外身出ニ仕候、番代方之分ハ前ニ記候通、給銀之内ニ而相弁申候
「下ケ札」（朱書）
　石川・河北之外、料紙組ゝ分定銀ニ被仰付置可被下候、尤定銀ゟ過之分才許身出ニ仕候、御扶持人手前ニ而御郡惣様ニ附候料紙有成銀高取立候事ニ被仰付可被下候、相談所寄合中料紙も以来有成銀高御郡ゟ取立申度奉存候、筆・墨ハ身出可仕候、番代并御郡所詰番惣代是迄之通有成代銀取立申度奉存候
　但能美郡番代方料紙之義　　能美郡　口　郡
　番代給銀之内ニ而相弁申候　　奥　郡　砺波郡
　　射水郡　新川郡」
石川郡　料紙入用丈万雑ニ相立申候、壱組分凡四百目斗筆・墨代ハ才許身出ニ仕候、御郡江附候分首座御扶持人等料紙代四百目斗請取、筆・墨ハ身出ニ仕候、番代方并寄合料紙・筆・墨代共八百目斗相渡申候
河北郡　料紙代等万雑立方ハ石川郡同様ニ御座候、御郡江附候分料紙代弐百五拾目番代方料紙・筆・墨代共四百五拾目斗取立、御郡江附候筆・墨代者身出ニ仕候
口　郡　拾壱組料紙代三百貫文、壱組弐拾貫文ゟ三拾五貫文迄定銀ニ相立申候、筆・墨代ハ手代給銀之内ニ而相弁申候、御郡江附候料紙代并雇人筆・墨代四百九拾弐匁余、且番代方料紙代ハ定銀ニ而四百五拾目相渡、筆・墨料ハ給銀之内ニ而為弁申候
奥　郡　拾弐組料紙代三百弐拾四貫文、壱組弐拾七貫文宛定銀ニ相立、筆・墨ハ才許身出ニ仕候、御郡江料紙・筆・墨代弐百八拾目并番代方暨金沢ニ而寄合料紙・筆・墨代壱貫七拾目、都合壱貫三百五拾目斗、外御出張所惣代料紙代九拾目御郡ゟ取立申候
「下ケ札」（朱書）

去年料紙壱組弐拾七貫文宛御渡之義御願申上候処、追而御指図
可被下旨被仰渡候、以来定銀ニ御渡奉願候　上

奥　郡」

砺波郡　拾六組料紙代四貫五百五拾目、壱組弐百五拾目ゟ
三百弐拾目迄ニ而定銀ニ相立申候、筆・墨代ハ才
許身出ニ仕候、御郡江附候料紙代御扶持人壱人分
百目宛取立申候、其外筆・墨代身出ニ仕候、相談
所之分ハ料紙・筆・墨代共身出ニ仕候、番代料紙
・筆・墨代共取立申候、去年分弐百三拾目余ニ御
座候、御郡所詰番并惣代料紙・筆・墨代御郡ゟ取
立申候

（朱書）「下ケ札

枌木御郡所御用料紙并詰番等料紙・筆・墨之義ハ、御詮義之
趣有之、追而御達申上候

砺波郡」

拾組料紙代弐貫八百五拾五匁、壱組分弐百六拾目
射水郡　余ゟ三百目迄ニ而定銀ニ相立申候、筆・墨代ハ才
許身出仕候、御郡江附候分百四拾六匁取立申候、
金沢ニ而寄合等入用紙代七拾目ゟ百三拾目余迄御
扶持人人ニ（ヘ）方へ取立申候、番代料紙三百九拾目余
取立申候、御郡所詰番料紙御郡御用紙江打込申候、
惣代分ハ弐百目定銀ニ仕候

新川郡　拾六組料紙代入用丈万雑ニ相立申候、壱組分凡三
百七拾目ゟ七百目斗迄筆・墨ハ才許身出、御郡江
附候分番代方暨金沢ニ而寄合等料紙代共壱貫目斗
諸郡共組ゝ定銀ニ
承届、依之組ゝ三
ヶ年平均等を以精
誠銀高取極可申聞、
其上ニ而指図ニ及
可申事」

（朱書）「御付札
料紙・筆代之義、

御郡余内ゟ取立申候、御扶持人等御郡江附候料紙
代ハ別段不取立、前段組当り分ニ而相弁申候（荷）（ゝ）

以来壱組料紙代三百五拾目ゟ四百目迄
定銀ニ相立申度奉存候

新川郡」

（朱書）「下ケ札

一油・蝋燭・炭代之事

能美郡　組ゝ御用所之分暨寄合之分共、不残才許身出ニ仕
候

（朱書）「下ケ札

寄合等御郡江附候分、御郡万雑ニ而取立候様奉願候

能美郡」

石川郡　組ゝ御用所之分ハ才許身出シ、寄合之分者万雑ニ
而取立申候

河北郡　右同様ニ御座候

口　郡　組ゝ御用所分ハ才許身出シ、寄合之節蝋燭代ハ万
雑ニ相立、炭・油身出ニ仕候

（朱書）「下ケ札

組ゝ御用所之外、寄合之刻相談所等油・炭代、当年ゟ御郡
万雑ゟ取立申度奉存候

口　郡」

奥　郡　組ゝ御用所之分ハ才許身出、寄合之分ハ去年之所、

蝋燭迠ハ御郡万雑ニ而取立、油・炭ハ宿元ゟ相弁
申候

（朱書）「下ケ札

当年ゟ相談所等寄合之節、油・炭ハ御郡万雑ゟ取
立申度奉存候

奥　郡」

※1　砺波郡　組ゝ御用所之分才許身出、相談所寄合中之分ハ御
郡万雑ニ而取立申候

射水郡　右同様ニ御座候
新川郡　右同様ニ御坐候

※1の部分に左の朱書

「御付札

油・蝋燭・炭代之義、御用所之分ハ才許身出、寄合之分ハ万雑
ゟ取立候義承届候、尚更精誠省畧可致事」

一非常蝋燭并組名之提燈・手桶・水籏之事

能美郡　身出ニ仕候、尤組替り之節引送不申候

（朱書）「下ケ札

蝋燭代迠御郡万雑ニ而取立申度奉存候

能美郡」

※2　石川郡　去年之処可書出旨被仰渡、御詮義附不申候
河北郡　右同様ニ御座候
口　郡　前ゝ蝋燭代過分ニ付、壱組三貫文宛ニ仕、其外身
出ニ被仰渡候
奥　郡　石川・河北同様ニ御座候
砺波郡　右同様ニ御座候
射水郡　右同様ニ御座候
新川郡　右同様ニ御座候

（朱書）「下ケ札　能美郡之外御郡万雑ニ相立申度奉存候

石川郡　河北郡
奥　郡　砺波郡
新川郡　」

※2の部分に左の朱書

「御付札

万雑ニ而取立候義承届候条、年ゝ書出、聞届を請可申候
但能美郡灯燈等自分紋相用候ニ付不引送旨、以来都而外御郡同
様ニ改可申事」

一箪笥・長持・算盤・硯箱・状箱之事

能美郡　身出ニ被仰渡候

※3　石川郡　箪笥・長持ハ万雑ニ相立、算盤・硯箱ハ身出ニ被
仰渡候、状箱ハ未御窺不申上候得共、組万雑ニ取
立申候
河北郡　身出ニ被仰渡候
口　郡　御郡書物箪笥・同状箱ハ万雑ニ相立、其外身出ニ
被仰渡候
奥　郡　身出ニ被仰渡候
砺波郡　右同様ニ御座候

射水郡　右同様ニ御座候
新川郡　右同様ニ御座候
「下ケ札」（朱書）
当年ゟ一統石川之通り箪笥・長持・状箱ハ万雑ニ相立、算盤・硯箱ハ身出ニ被仰付可被下候　諸　郡」

※3の部分に左の朱書

「御付札」
本文窺之通り万雑ゟ取立候義承届候、箪笥等新ニ出来致候義有之節可申出事」

一諸御奉行所御宿余荷之事
能美郡　定検地御奉行所之外、壱飯百文宛御郡余荷ニ仕候
石川郡　定検地御奉行所之外、壱飯壱匁組余荷ニ仕候
「御付札」（朱書）本文宿余荷伺之通たるへき事」
但御泊拾弐匁壱分四厘、御昼七匁四分余荷仕度旨申上候所、身元相応之者宿仕、家役冥加ニ心得可申、山方等無拠分ハ其時ゝ書出可申旨被仰渡
「下」（朱書）口　郡　壱泊り弐百弐拾文ゟ三百五拾文迄、其所ニ寄取極之義去春御達申上置候通、所ニ（ゝ）区ゝ相成居申候
「下ケ札」（朱書）
以来壱飯町立ハ壱匁弐分五厘、里方ハ壱匁五分ニ相成（改）ゝ申度奉存候　口　郡」
「上」（朱書）河北郡　定検地御奉行所之外、壱飯壱匁宛御郡余荷ニ仕候
但御泊り七匁余荷ニ仕度旨申上候処、石川郡同様被仰渡候
奥　郡　御塩方御奉行所之外、壱飯百五拾文御郡余荷仕候
「下ケ札」（朱書）
宿立ヶ所之義ハ割方三ノ一ハ所方、三ノ二ハ御郡余荷ニ仕度奉存候
但門前村・輪嶋・海士・宇出新（津脱）町之義ハ無高所之事故、御郡ゟ全余荷相渡申度奉存候事　奥　郡」
砺波郡　壱飯壱匁宛、其所切余荷仕候
射水郡　右同断
新川郡　右同断
「下ケ札」（朱書）
此御用宿余荷方一飯ニ付今五分増御聞届、壱匁五分宛平均ニ被仰付可被下候　砺波郡　射水郡　新川郡
下ケ札
村役人寄有之分ハ何角混雑仕候間、御昼・泊ニ不抱（拘）増余荷三百文取立申度奉存候　諸　郡
同
壱飯壱匁余荷ニ相成居候へ共、以来壱匁五分宛余荷ニ被仰付可被下候　加賀三郡　越中三郡
同
御奉行所御焼飯御持参、村役人寄無之分ハ御昼飯余荷之義御休壱人ニ付五拾文、御三人以上ニ候得者、何人ニ而も（ゝ）百五拾文余荷相渡申度奉存候　諸　郡」

一諸役人宿余荷之事

能美郡　御餌指壱飯七分宛、其外壱飯百文宛御郡余荷仕候、
組才許村廻り之分其所切余荷仕候

石川郡　諸役人惣而壱飯壱匁、手代壱飯八分、組余荷并御
郡余荷仕候、才許村廻り分ハ其村余荷仕候

※5

河北郡　諸役人・手代共惣而壱飯壱匁御郡余荷仕候

（朱書）「下ケ札」

諸役人壱飯余荷壱匁之分、以来壱匁五分宛余荷ニ被仰付可
被下候　　加州三郡」

※4の部分に左の朱書

「御付札

本文之通ニ而可然、併諸役人之分相混、紛敷義も可有之、依而
十村暨新田才許等止宿之分別冊ニ相記、役所江指出可申事

諸　郡」

※5の部分に左の朱書

「御付札

諸役人宿余荷伺之通たるへく事」

口　郡　壱泊り弐百弐拾文ゟ三百五拾文迄、其所ニ寄取極
之義去春御達申上置候通、所ゝ区ゝ相成居申候

（朱書）「下ケ札

以来壱飯町立ハ壱匁弐分五厘、里方ハ壱匁五分ニ相改申度
奉存候

口　郡」

奥　郡　御塩方之外、諸役人壱飯百五拾文御郡余内仕候

（朱書）「下ケ札

宿立ヶ所之義ハ割方三ノ一ハ所方、三ノ二ハ御郡余荷ニ仕
度奉存候

但門前村・輪嶋・海士・宇出津新町之義ハ無高所之事
故、御郡ゟ全余荷相渡申度奉存候事

奥　郡」

砺波郡　壱飯壱匁宛、其所切余荷仕候

射水郡　右同様ニ御座候

新川郡　右同様ニ御座候

（朱書）「下ケ札

壱飯壱匁之分、五分増方御聞届可被下候

越中三郡

同

諸役人焼飯持参有之分、昼休余荷之義壱人ニ付百五拾文、
三人以上何人ニ候共、百五拾文余荷相渡度奉存候

諸　郡」

一金沢ニ而寄合座料之事

※6

能美郡　壱度五匁

石川郡　去年不書出様被仰渡候ニ付、願之趣小紙上置候得
共、未御指図無御座候

河北郡　同断

（朱書）「下ケ札

一寄合座料之事

拾匁　寄合壱度座料町家之分

拾五匁　同断寺庵借候分

右遠郡之人ゝ出府中寄合仕候与者遂候而、村ゝ役人等呼出
人罷出、多勢入込、夜中迄も罷在候ニ付、右之通相渡、御
万雑

郡余荷ニ相立申度奉存候間、此段御聞届可被下候
（ゝゝ）
石川郡・河北郡」

口　郡　去年之所見合申候
奥　郡　壱度夏三匁、冬五匁
砺波郡　同断
射水郡　同断
新川郡　去年之処取極不申候

「（朱書）下ケ札」
此座料以来夏冬共一度五匁ニ仕度、人多呼出者有之、寺庵借候分ハ壱度拾五匁ニ仕度奉存候
能美郡　口　郡
奥　郡　砺波郡
射水郡　新川郡」

※6の部分に左の朱書

「御付札
寄合座料諸郡とも伺通たるへし、但年ゝ可書出事」

一相談所雑用之事
「（朱書）御付札
相談所雑用并番人給銀等伺之通承届候」

能美郡　相談所借賃年分三百目、并小遣日懸り料銀御郡余荷ニ而取立申候、其外賄方組才許出座之人ゝ身出ニ仕候

「（朱書）下ケ札
夜具借賃御郡万雑ニ而取立候様奉願候
石川郡　相談所無御座候
河北郡　同断
口　郡　相談所火盗番人給銀弐百目、屋根葺替料・屋敷年貢米代・作事修覆料・垣結賃等、并小使日懸り料銀御郡余荷ニ仕候、其外賄方人ゝ身出ニ仕候
奥　郡　去年之処相談所無御座候故、町立ニ而御用宿申付相弁申候

「（朱書）下ケ札
宇出津ニ而相談所出来仕、寄合相弁、夜具・家具借受申ニ付、借賃相渡候義御聞届可被下候、番人・小遣相弁、壱人之給銀弐百目去年五月被仰渡通相渡可申候
砺波郡　相談所火盗番人給銀弐百目、地面年貢・屋根葺替料・作事修覆・垣結賃、并小使日懸り料銀御郡余荷ニ仕候、其外賄方人ゝ身出ニ仕候
射水郡　相談所番人給銀弐百目、屋敷年貢・屋根葺替・垣結賃、并小使日懸り料銀御郡余荷ニ仕、飯代之義壱飯三拾三文与相極、米代相払、残御郡余荷ニ仕候、夜具并蚊帳借賃八百五拾目万雑相立申候

「（朱書）下ケ札
夜具・蚊帳借賃万雑ゟ取立候義指止、出来方被仰付、代銀御仕法高作徳米代銀之内御渡可被下哉奉窺候　射水郡」
新川郡　去年之処相談所無御座、宿立等ニ而借席を以相弁申候、席料御郡余荷、賄料ハ人ゝ身出ニ仕候

「（朱書）下ケ札
当秋御郡所ニ建添、詰番も被仰渡、寄合相談相弁申候間、夜

具・蚊帳之義射水同様御仕法高作徳米代銀之内を以出来方奉願候、且又相談所番人給銀弐百目去年五月被仰渡通相渡可申候
新川郡」

一口郡千路村等八ヶ村先年御預所ニ候処、御替地ニ相成、右八ヶ村江相当り候跡ゟ返上米代銀、毎年諸郡ゟ余荷ニ仕来申候

一御場ニ而詮義物等小使雇料之事
能美郡　無御座候、届御用状等番代方下人ニ而相弁申候
石川郡　御役所ニ而小使壱日壱匁五分ニ而毎日為詰申候
河北郡　右同断
口　郡　時ゟ雇候得共、番代方ニ而為相弁申候
「下ケ札」(朱書)
偶日毎ニ一日壱匁与して相雇召遣申度奉存候、
此段御聞届可被下候
口　郡」
奥　郡　時ゟ御役所ニ而指支候得共、雇申者罷在不申故、
砺波・射水ニ而内小使、河北郡之小使相頼相弁居申候、賃銭相渡不申候、諸御手合届状等ハ番代方下人ニ而相弁申候
「下ケ札」(朱書)
右同様御聞届可被下候」

砺波郡　御席等江御郡所ゟ御達之御紙面等丁日ニ指遣候内使小遣、御郡所御聞届ニ而召遣候分一日ニ壱匁宛
「御付札」(朱書)
能越申談、両人召仕可申事」
新川郡　諸御手合御用状并御指送り之品等持届方小遣罷在不申、番代方ニ而相雇相弁候ニ付、雇料年ゟ見斗を以御郡余荷ニ而相渡申候
「下ケ札」(朱書)
此分以後一日壱匁図り日懸りを以相渡申度奉存候
新川郡」

一新開方万雑之事
※7
能美郡　新田才許手合料紙・筆・墨代之義ハ新田才許身出、寄合雑用ハ相談所ニ而相弁、見分宿雑用之義ハ其所切余荷ニ仕候
石川郡　新田才許手合料紙代・飛脚賃共御郡余荷ニ而指出、寄合雑用ハ新田才許身出、見分宿雑用ハ其所切余荷ニ仕候
河北郡　新開方雑用之義、去年迄御郡万雑ニ打立来候へ共、新開万雑ニ相立可申義与御窺申上候処、以来別段新開万雑相立候様被仰渡ニ御座候
口　郡　新田才許新開所見分宿余荷并新開方之義ニ付決算宿余荷、新雑用組ゟニ而新開方飛脚賃新開高并同定納ニ半銀宛割符仕候、新田才許手前ニ而之料紙・筆・墨ハ新田才許身出ニ仕候、内検地方之分ハ去年窺之上内検地之極高并納定江半銀宛割符仕候
奥　郡　新開方万雑別ニ相立居申候

（朱書）「下ケ札
以来新開高万雑相立申度奉存候　　奥　郡」

砺波郡　新田才許手合料紙代并飛脚賃共、新開高并定納ニ
割符仕候

射水郡　新田才許手合料紙代并飛脚賃之義方ニ六拾目定銀ニ
相立、万雑ゟ相渡来申候、近年外ニ三百五拾目増
方万雑ゟ相渡申候

新川郡　右同断、弐拾貫四百六拾文万雑ゟ取立候得共、去
年万雑帳ニ新開方ゟ取立可申旨、御付札ニ而被仰
渡候ニ付、新開方ゟ取立申候

〆

※7の部分に左の朱書

「御付札
新開方万雑書出方、御郡ゟニ而精粗有之候間、夫ゟ綿密ニ可
書出事」

一御詰米方御役所取次人料之事

能美郡　小松町ニ而御場印取次人有之、御郡方ニおゐて入
（朱書）「御付札　用等懸り不申候
追而別段詮義致し候之事」

石川郡　本堂形詰手代

八百目　惣右衛門

八百目　源　七

八百目　宗　吉

但宗吉義、去ゟ年惣御預御代官方ニ付御指除

（朱書）「下ケ札
堂形之義弐人ニ而相弁申候　　石川郡」

同　郡　本吉御蔵方詰手代

八百目　半　七

但半七義、去ゟ年惣御預御代官方ニ付御指除

（朱書）「下ケ札
本吉之義御米出舩御払方時ゟ有之、詰番手代壱人罷在不申而ハ
指支申候間、半七代り壱人相立申度奉存候　　石川郡」

河北郡　本堂形詰手代

八百目　伊　助

三百六拾目　五一郎

〆

（朱書）「下ケ札
此五一郎義当時年若ニ付、給銀如此相渡候得共、追ゟ年行、御
用方手馴候得ハ、八百目迄相渡申度奉存候、此段御聞置可被下
候　　河北郡」

口　郡　所口ニ而取次人料、前ゟ壱組三貫文宛ニ渡来、去
年も拾壱組分三拾三貫文相渡申候、但以来可相止
旨去暮被仰渡、弁方之義重而枩浦善左衛門（所口町奉行）様江御
引合被下候様申上、未夕相決不申候

（朱書）「下ケ札
指止候而者指支申候間、是迄之通被仰付置被下候様仕度奉存候
　　口　郡」

奥　郡　別段無御座候、輪嶋御出張所附惣代相弁申候（手）
砺波郡　今石動御詰方御役所惣代甚兵衛年分料銀弐百八拾目之内、半高御代官ニ而指出候、残并紙代四拾目
御郡余荷
射水郡　今石動御詰米方御場印切手取次等、年中料銀百目
福町村次兵衛江御郡万雑ニ而相渡申候
新川郡　魚津御詰米方御場印切手取次等、年中料銀百六拾目去年指止可申旨被仰渡、才許ニ身出ニ仕置申候

「（朱書）下ケ札
射水郡同様御郡万雑ニ而相渡申度奉存候　新川郡」
右諸郡ニ有之品、去年御指図如此ニ御座候

能越ニ限り候品
一御郡所并御出張所詰人料之事
口　郡　御郡組才許等悴等指出料銀五百目宛、飯代ハ相渡不申候

※8
奥　郡　輪嶋・宇出津両所惣代両人、壱人ニ付五百目宛、飯代ハ相渡不申候、但宇出津之義者去年手代相極不申、当年ハ手代相立申候
砺波郡　枌木惣代壱人給銀五百目、外ニ定詰手代壱人当年御聞届御座候
射水郡　小枌右同断
外ニ定詰手代壱人、当年御聞届御座候
新川郡　東岩瀬惣代壱人給銀五百目

「（朱書）下ケ札
越中三郡御郡所惣代壱人給銀五百目之外、飯代年分三百六拾目御郡ゟ取立相渡申度奉存候、砺波・射水惣代之外、定詰手代壱人給銀五百目、飯代三百六拾目御郡ゟ取立相渡申度奉存候、新川郡之義惣代之外定詰手代之義同様御願申上候　越中三郡」

※8の部分に左の朱書

「御付札
越中三郡も口郡同様分役之子弟等為相勤、料銀五百匁可相渡、併分役之子弟指支之義も有之候ハヽ、是迄通承届候得共、飯料之義ハ難承届候事」

加刕三郡ニ限り候品
「（朱書）御付札
本文在来通」
能美郡
一弐拾目　歯朶・ゆつり葉
石川・河北
一五分宛　艾壱〆ニ付
石川・河北
一壱匁五分宛　菖蒲壱〆ニ付
石川・河北
一五匁斗　抜穂代
石川

一四拾目斗　御舞台松諸雑用
一五百四拾四匁　石川　御門松持届人足共諸雑用
鶴林寺分共
一弐拾五匁　石川　御家中渡り御門松雑用
一壱貫八百文宛　石川・河北　天徳院等御花松
一七百文　石川　草橘
一弐拾目　河北　草橘
一壱貫三百五拾文　石川　野老
一拾匁　河北　右同断
一拾匁　石川　根引松
一拾五匁　河北　右同断
一百三拾目　石川　真菰
一百目　河北　右同断
一五百弐匁九分弐厘　河北　御門松諸雑用
一四拾五匁　河北　御家中渡り御門松雑用

一四拾九貫弐百三拾壱文　石川　御門松杭木代并人足賃共、金沢材木町とうのすや渡り
(朱書)「御付札　本文石川・河北ゟ相渡可申候」
一弐拾目　御鷹野之砌、御用之御閑所弐つ預ケ置候余荷、是迄石川郡ゟ相渡来申候
(朱書)「下ケ札　以来石川・河北両御郡ゟ余荷相渡申度奉存候　石川・河北両郡」
一四拾三匁　石川　春秋両度肝煎誓詞見届定役中出役、野ゝ市村照台寺座賃
一四拾目　河北　春秋両度右同断、南森下村光圓寺座賃
一八貫三百五拾文　能美郡　小松上口・下口弐ヶ所新米改番所借賃
一六百五拾目　石川郡拾三ヶ所右同断
一弐百弐拾目　河北郡大樋口等五ヶ所右同断

能美郡ニ限り候品

一百目　大聖寺御領洩屎、今江村改番料
一五拾目　牛馬通行札、今江村ニ而渡方世話料
一安宅浦大坂為御登米、小松今江御蔵ゟ川下上乗人料銀半高斗下村ゝゟ指出、半高御郡余荷ニ而相渡申候、年ゝ出船御米高ニ寄銀高多少御座候

石川・河北ニ限り候品

（朱書）「御付札
丁場帳調料之義者外御郡同様可相心得事」

一定検地御手合御普請丁場帳調候料銀、并紙代其村ゟ取立申度段申上候処、裁許手前ニ而調候様被仰渡候

（朱書）「下ケ札
定検地所御手合丁場帳之義ハ、村方ゟ相調可指出品ゝ御座候間、村方ニ而為調可申、調筆出来不申村之分ハ物書相雇為調、紙代并料紙其村ゟ為相渡申度奉存候

石川
河北　両郡
」

石川ニ限り候品

（朱書）「御付札
本文池番賃銀承届候事」

一三百目　倉嶽村領池番賃

但植付ゟ秋土用迄、日数百五拾日壱人ニ付壱匁宛

一三百目　國見村・熊走村領赤倉池番賃

但右同断

右去ゝ年迄番人付置候得共、指止可申旨被仰渡候

河北郡ニ限り候品

（朱書）「御付札
下ケ札之通承届候事」

寛政十年千石延御払米代年賦返上弐百拾壱匁、享和二年七百石延御払米代年賦弐百弐拾七匁、去年迄御郡万造ゟ取立上納仕候

（朱書）「下ケ札
此寛政十年等延御払米代返上方之義、砺波・新川両御郡同様之越（趣）意之品ニ御座候間、是迄之万雑ニ而取（通脱）立方奉願上候

河北郡」

一　醫王山池番賃

右是迄二俣村ゟ番人立置申候得共、去ゝ年已来指止申候

（朱書）「御付札
本文番人之義ハ、是迄之通立置可申、併給銀之義ハ是迄万雑ゟ不相渡ニ付、今更難承届候事

下ケ札　石川郡倉嶽池（ヶ）等同様之義ニ御座候間、倉嶽同事ニ御詮義奉願上候

河北郡」

能劒四郡ニ限り候品

一所口御役屋敷取次人料銀之事

（朱書）「御付札　本文追而詮義之事」

但去年口郡・奥郡打込、壱人ニ相改候様被仰渡候得共、未詮義方相決不申候

※９　口　郡　取次人壱人、手伝弐人五百目相渡来、手伝者当年盆後指止申候

奥　郡　取次人弐人弐百四拾目相渡申候

（朱書）「下ケ札
取次人奥・口壱人ニ而者不弁之筋も御座候間、奥・口振分、壱人宛相立、口郡是迄手伝とも料銀五百目之分、手伝指止弐

百五拾目減方仕、奥郡是迄之料銀弐百四拾目之分百弐拾目減
方仕度奉存候　　奥・口両郡」

※9の部分に左の朱書

「御付札
奥郡同様、口郡取次料銀も百弐拾目之減方付可然、併口郡限り
料銀余荷無之而ハ指支之筋有之候ハヽ、其委曲可書出、其上ニ而
及詮義候事」

一駒毛調理人料銀之事
但去年駒壱疋ニ付弐拾文宛為請取可申旨被仰渡候

「御付札（朱書）
本文横目博労・平博労入交為相勤、料銀壱疋弐分宛相渡候義
ニ取極可申事」

※10　口郡　去年之処、日懸り・宿料共一日ニ三百
文宛ニ而、拾七貫五百五拾文相渡申候
去年之所、壱組壱人宛壱人ニ付拾貫文
宛相渡申候
奥郡

「下ケ札（朱書）
横目博労被仰渡、料銀御渡可有御座奉存候ニ付、毛調
理者右博労勤向与奉存候間、別段料銀相渡候ニ不及与
奉存候　　奥・口両郡」

※10の部分に左の朱書

「御付札
奥・口宿料銀過分ニ相聞得申候、今壱篇減方等之詮義可有之
事」

一子浦村橋請負銀、口郡・奥郡内浦筋ゟ年ゝ定銀を以指出候分之支

※11　但奥郡ニ而者組万雑御指止之上者、以来指止度旨申上候所、以
来可指出止旨被仰渡候得共、口郡ゟ御達ニおよひ候趣有之者、
一作奥郡ニ而者御郡余荷ニ而者是迄之通指出候様被仰渡候

「下ケ札（朱書）
是迄年ゝ定銀之請負ニ而、去年新出来ニ橋普請仕候事故、請
負人甚迷惑之趣相歎候、依而当年ゟ三ヶ年是迄之通請負銀取
請候而、其後ハ諸郡打銀御普請（請脱）ニ被仰付被下候様仕度奉存候
右之通ニ而別存無御座候　　口郡
奥郡」

※11の部分に左の朱書

「御付札
詮義相済候品也」

口郡ニ限り候品ゝ

一大筒持運ニ付人足余荷之事

「御付札（朱書）
大筒持運有之節、其時ゝ可申聞候事」

口郡ニ而者羽咋村江大筒着舩ニ付、川口堀揚人足余荷壱人ニ
付七拾五文宛、都合弐貫弐百五拾文、去年御郡余荷ニ相立申
候、髙畠駅・二宮駅ハ他村ゟ寄セ人足余荷、是又御郡余荷ニ
相立申候、当年者無御座候

一矢篦竹御藪、村方ゟ矢篦方ニ御出役ヶ所江持運人足賃等余荷

「御付札（朱書）

本文其時ゟ可相達候事」

但去年者御座候得共、当年者無御座候

一用水方等書算料銀

但日懸りを以相渡、年ゟ増減御座候、尤前ゟ用水方書算料銀、用水打銀之内を以五百目充之渡方ニ御座候得共、指止申候

「(朱書)御付札用水方等書算料銀之義分兼候間、巨細可申聞候事」

一三拾貫文　大念寺新村舩破損方御用人ゟ御宿借揚賃

一七拾目　一青組所之口村ニ而一宮御出祭神主宿余荷

「(朱書)御付札詮義中之品」

但今年ゟ指止可申旨、去暮被仰渡候得共、当閏七月当年も一作万造ニ相立可申旨、伊藤八左衛門江御口達を以被仰渡候

一弐拾弐匁五分　享和弐年弐千石小作江延御払米代年賦返上銀

「(朱書)御付札委曲可申聞事」

一百目　文化年中御扶持人役用拝借銀、御改作所江年賦返上

一嶋組流刑人小屋地年貢米等諸雑用

「(朱書)御付札金岩江引合可申事」

一百五拾目　田鸃濱ニ而金岩重左衛門(能州口郡御塩奉行、御代官兼帯、能州山奉行)様御役所小使給銀三百目之内、半銀塩士村ゟ出口銭

但去一作是迄之内通可相渡、当年ゟ御詮義之趣重而可被仰渡旨、去年被仰渡候ゟ

「(朱書)下ケ札御詮義之趣被仰渡可被下候　口郡」

越中三郡ニ限り候品

「(朱書)御付札本文伺之通承届候之事」

一往還筋雪割等、請取之村ゟ往還筋村ゟ江受負申談置候所、其組草高ニ割符取立可相渡筈之旨、去年奉伺候処、今一偏(篇)巨細ニ可書上、其上御指図可被成旨被仰渡候

「(朱書)下ケ札

此往還筋江戸江之御往還等丁間打立、前ゟ麗取を以組ゟ請取村取極申義ニ而、御條数書ニも往還道受取之在ゟ常ゟ條(修)理いたし、損不申様可仕、打捨置及大破候ハヽ、其請取在所肝煎・組合頭可為越度旨被仰渡候通ニ御座候間、此分ハ古格通其請取之村ゟ割符申渡度奉存候」

※12　一組ゟ飛脚等取調理候者、村役人之内一作切精誠人撰仕取調理、成限入用不相懸様ニ、右調理方日懸り入用御郡余荷ニ仕度旨奉伺候処、右者繰ゟニ出候義ニ候ハヽ、日懸り相渡候ニ不及哉、尚更様子御達可申上旨、去年被仰渡候

「(朱書)下ケ札

此調理方役人書算出来不申人ゟニ而ハ相弁不申候間、人撰いたし召遣、料銀料(精)誠詮(ゟ)義仕相渡申度奉存候」

※12の部分に左の朱書

「御付札

詮義之通り相心得可申事」

（朱書）「御付札　万雑ニ預り候義ニ而者無之ニ付、別段願出可申事」

一越中三郡所ゟ御蔵御代官御米納之節、是迄御米積人足之義蔵下村ゟ御代官宿江下敷請負ニ相成候内ニ而、御蔵配出人足を以相弁来候処、去年ゟ請負指止、蔵下ゟ下敷為致申候

（朱書）「下ケ札　村ゟ罷出居候人足ニ而米積為仕候而ハ、配並等手馴不申、崩シ申ニ付、俵形も悪敷相成申ニ付、配出仕居候誓詞人足を以為積入、賃銀御米壱石ニ付三厘宛斗下ゟ取立相渡申度奉存候　越中三郡」

砺波・射水両郡ニ限り候品

（朱書）「御付札　詮義之通可相心得候事」

一菜種直段立方等ニ付、組惣代肝煎所ニ被罷出候日懸り料銀、散役方ニ付候品ニ候哉、左候ハヽ散役才許被下銀ニ而可相弁旨、去年被仰渡候

（朱書）「下ケ札　此菜種直段立方、御郡所御仕法ニ而油直段立方ニ付罷出候惣代肝煎日懸り料銀ニ御座候而、散役方江抱（拘）不申義ニ御座候間、御郡ニ而余荷相渡度奉存候」

砺波郡ニ限り候品

一明和六年延御払米返上組余荷之分、以来御郡余荷ニ仕度旨、去年奉伺候所、延御払米以来与而も余荷ニ懸り候義不相当詮義振御達可申上旨被仰渡候

（朱書）「下ケ札　此明和六年御延払者同五年御収納指支、町蔵等ニ而過分入不足有之間、同六年御払米六千五百石御聞届、其内追ゝ代銀上納仕、天保十一年残上納銀壱貫六百拾六匁四分、同年ゟ五拾ヶ年賦ニ被仰渡、壱ヶ年三拾三匁宛上納仕候分、組割ニ仕候義御郡江引上、割賦仕候而も征合遅不仕候間、御郡ニ而取立候得者、手数ニも相成不申ニ付奉伺申義ニ御座候間、此段御聞届被下候様奉願候」

一山田組是安村領風宮修覆等入用、先能美組・先石黒組・先太美組村ゝ割符指出来候ニ付、当時山田組・太美組・井口組・石黒組・野尻組・山見組之内、先能美組等三組村ゝゟ取立申候、以来も是迄之通り取立申度旨奉伺候所、右風宮修覆等入用長立候者ゟ指出可然哉、乍去尚更風宮濫觴可書出旨、去年被仰渡候

（朱書）「御付札　本文二ヶ条共付札之通相心得可申事」

（朱書）「下ケ札　此風宮之義ハ前ゝゟ有之社ニ而、元来川上筋ニ限り、非常之風吹申義有之、其折ニ者立毛吹損候ニ付、右風吹不申様川上筋村ゝ百姓中祈念仕候、ヶ所高割ニ而社堂修理等仕候ニ付、在来之通り仕度奉存候」

新川郡ニ限り候品

（朱書）「御付札　詮義中先是迄之通可相心得候事」

一巡見　上使御宿御貸米代三拾ヶ年賦返上、壱貫弐百拾五匁余御郡余荷ニ而取立上納仕来候所、去年御宿主ゟ取立可申旨被仰渡候得共、元来御宿相勤候義者、人ゝ相好不申候得共、其所ニ而可也之家所持仕候者、或者先来御宿相勤候者江押而御宿申渡候義ニ御座候処、従来難渋等ニ而迚も家修理仕得不申訳ニ付、御貸米奉願、夫而已ニ而も行届不申候故、御宿主ゟも矢張過分者引足ニ相成居候義ニ而、中ゝ御貸米返上之手段無御坐、其砌ゟ万雑を以返上仕来申義ニ御座候、所詮今更御宿主共江返上方申渡候而も出道無之義ニ御座候間、万雑ゟ取立申義不相当義ニ御座候ハヽ、何与ぞ御詮義可被成下、先昨年之所万雑を以返上仕度旨申上、取立上納仕置申候

（朱書）「下ケ札
是迄之通被成下候様仕度奉存候」

一享和三年延御払米千石代年賦返上壱ヶ年当り三百三拾三匁万

※13 雑ゟ取立上納仕来候所、借用人ゟ取立上納可仕旨、去年被仰渡候得共、右者同年春夫食代延御払米拝借仕、御郡中ニ貸渡候義ニ而、返上方之義者高懸りを以取立可申分ニ御座候、只今取立ニ仕候而も高割ニ而取立可申ゟ外無御座候、且年古義ニ而借状帳も不全候間、是迄之通万雑取立ニ被成置被下候様申上、去年も万雑ニ而取立上納仕置申候

（朱書）「下ケ札
是迄之通被成置被下候様仕度奉存候」

※13の部分に左の朱書

「御付札
本文付札之通可承届候事」

一九貫五百文　御通行之節、境村馬渡所仮小屋修覆料、御郡余荷ゟ取立申候

（朱書）「御付札
本文二ヶ条共承届候事」

一四貫三百文　川ゝ仮舟橋板等雨覆方入用、右同断

（朱書）「下ケ札
此二口以後も万雑ゟ取立度奉存候　新川郡」

一組万雑指止以後、御郡万雑・村万雑迚ニ可仕旨、去年被仰渡候

※14 但石川郡之義、去年ゟ三ヶ年是迄之通組万造仕候義御達申上、御聞届ニ御座候

※14の部分に左の朱書

（朱書）「御付札
組万雑之義難指解候之条、先達而申渡置候通可相心得候事」

一五穀成就御祈祷、毎歳春秋春日社ニおゐて御領国御祈祷、先年相願、去ゝ年迚仕来候所、去年ゟ指止候様被渡（仰説）候得共、五穀成就御祈祷之義、去ゝ年已前之通、万雑ゟ御祈祷料銀弐枚宛春秋取立申義御聞届可被下候、尤社日参詣人是迄賄料も万雑取立候得共、此義ハ指止申義ニ御座候

（朱書）「御付札
本文万雑ゟ取立候儀者指止可申候事

下ケ札
組万雑之義、御用之多少ニ寄銀高高下御座候処、御郡万雑江引揚候而者、御用之品少キ組ハ征合相増、御用多之組ハ却而征合相減候ニ付、中ニハ省畧方此末不行届向も出

来可申哉、且又御用之品少キ組ニ而征合相増候而ハ、信服も不宜如何敷奉存候間、矢張是迄之通組万万(衍)雑別立ニ被仰付、御扶持人手前ニ而年暮組ゝ万雑綿密相調理、重ゝ詮義之上組ゝ征合相立候得者、省畧方詮義も行届可然与奉存候間、組万雑之義御郡万造与別立之義御聞届被下候様奉願上候

能美郡
河北郡
越中三郡」

(朱書)「下ケ札
▽△ 以来石川郡等之通ニ仕度奉存候

能美郡・口郡
奥　郡
越中三郡　」

(朱書)「初而奉伺候」
一他村江加役人遣候料銀之事

※15　但石川・河北之分ハ万雑ゟ取立候義、御聞届御座候へ共、外御郡分治定不仕候

(朱書)「下ケ札 ▽△ 」

※15の部分に左の朱書

「御付札
本文承届候事」

(朱書)「同断」
一口郡・奥郡御扶持人等出府之節、不時指懸り御用書物多、在

※16　住番代等ニ而手張候節、無拠物書雇候分料銀御郡余荷ニ仕来申候

(朱書)「下ケ札
是迄之通被仰付置可被下候、口郡・奥郡・能美郡之義も、本文之通被仰付置被下候様奉願候」

※16の部分に左の朱書

「御付札
本文御郡余荷之義指止可申事」

能劭四郡ニ限り候品

(朱書)「同断」
一寺社方御用飛脚・苗字帯刀之人并小者体之人、是迄宿ゝニ而

※17　御宿取来候、此余荷口郡ニ而当十月迄之分相調理候所、百拾八匁五分有之、奥郡者去年分外御用宿余荷之一集ニ〆込置申候

(朱書)「下ケ札
飛脚之義ニ候へ者、已来御用宿取不申様被仰渡被下度奉存候

口郡・奥郡　」

※17の部分に左の朱書

「御付札
本文詮義之事　御郡」

口郡ニ限り候品

(朱書)「初而奉伺候」
一三貫文　嶋組日出ヶ村三ヶ村ニ而口渡番所賃(下上)、前ゝ組万造ニ而相渡候分

(朱書)「御付札
本文付札通之事」

(朱書)「下ケ札

当年ゟ御郡余荷ニ而相渡申度奉存候」

（朱書）「同断」

一御出張所走り料銀之事

※18　但御出張所ゟ村送抔指出候節、肝煎遠方ニ罷在、小使ニ而者難相弁并御詮義物多之節、呼寄方是又小使ニ而者弁得不申候得共、去年ハ上浅井組御用付番徒罷在相弁候故、去年ハ右料銀相立不申候

（朱書）「下ケ札

当年ゟ八拾目御郡余荷ニ而相渡申度奉存候」

※18の部分に左の朱書

「御付札

本文出張所走り義不相当、且出張所ゟ村送り状指出候義無之、呼出者等多ク有之、小使壱人ニ而不便之筋も有之候ハヽ、其趣委曲可申聞、其上ニ而可及指図候事」

砺波郡ニ限り候品

（朱書）「同断」

※19　一三百目　五位組福岡　御小休所修覆料、年ゝ余荷銀前ゝ取極候分

※19の部分に左の朱書

「御付札

本文五位組之義承届候事　下ケ札」

ゝゝゝ

（朱書）「同断」

※20　一三貫目　馬下御定賃銀之外、定余荷銀前ゝ取極候分

※20の部分に左の朱書

「御付札

本文馬下之義如何」

（朱書）「下ケ札

此二口以後も御郡余荷ニ仕度奉存候」

（朱書）「初而奉伺候」

※21　一弐百目　庄下組権正寺村領ニ而庄川舟越余荷

（朱書）「下ケ札　組万雑別段ニ仕候義御聞届御座候へ者、此二口組余荷ニ可仕候」

※21の部分に左の朱書

「御付札

是迄之通御郡万雑ゟ取立可申事」

（朱書）「同断」

※22　一百目余　桐木村領ニ而小矢部川舟越余荷

右権正寺村領ニ而庄川、桐木村領ニ而小矢部川、上下モ渡場手遠ニ付、廻り道仕候而ハ往来難義仕候ニ付、是迄組余荷仕候分、去年已来御郡余荷仕候

※22の部分に左の朱書

「御付札

本文御郡万雑ゟ取立可申事」

（朱書）「同断」

一百五拾目　鴨嶋御蔵方ニ付御用宿余荷、御郡ゟ相渡候分

（朱書）「同断」

※23　一百五拾目　津沢御蔵方、右同断
但村万雑等江御郡万雑ゟ引足候義、去年指止候様被仰渡、同年ゟ渡方指止申候
（朱書）「下ケ札　鴨島御蔵之義ハ別段小紙を以御願申上置候主意御座候」

※23の部分に左の朱書
「御付札
別段伺書先達詮義伺候通」

越中三郡ニ限り候品
（朱書）「同断」
一四拾三匁宛　砺波郡金沢在住手代理助・五左衛門并同人悴五郎兵衛調筆物為致候ニ付料銀

※24　但理助等越御代官納方手代ニ付、別段給銀主人主人ゟ相渡申候

※24の部分に左の朱書
「御付札
本文万雑指出候義、末四口共難承届候事」

（朱書）「初而奉伺候」
一百目　射水郡金沢在住手代乭作調筆物等為致候ニ付料銀
（朱書）「同断」
一百五拾目　同断兵次料銀
〆二口　但乭作等越御代官納方手代ニ付、前段同様御座候
（朱書）「下ケ札
此在住手代ニ而成限り書物調方可相弁候得共、不時指懸ル書物有之、在住手代納方ニ罷出在合不申節者、別人相雇日懸り一日弐匁宛、日数ニ応シ御郡余荷ゟ相渡申度奉存候　砺波郡・射水郡」

一新川郡御扶持人等出府中、不時諸書物調筆料、御郡余荷ゟ取立来、昨年百三拾目斗書上候処、身出ニ被仰渡
（朱書）「下ケ札
指懸り書物手張候節、調筆方相雇候分者、料銀御郡余荷ゟ相渡度奉存候」

新川郡ニ限り候品
（朱書）「初而奉伺候」
一御閑所預ケ置候者江壱ツニ付拾匁宛、御郡余荷ゟ取立相渡度

※25　奉存候

※25の部分に左の朱書
「御付札　本文承届候事」

右御郡万雑ニ相立候品之内、御郡ゟニ而不列相成有之候品等、私共示談仕、大体不同無之様取極、下札を以願之趣申上候、且又御郡ニ寄無拠不同ニ相成居候品ゟも御座候、猶御詮義之趣被仰渡可被下候、乍然相洩候品御座候ハヽ、追而御達可申上候、以上

嘉永七年十一月　北村与十郎　埴田村ニ郎右衛門
鈴木次郎作　寺井村孫七
石黒源三郎　五十嵐孫作

13、安政二年「諸郡万雑方取極重而奉窺帳」

（石川県立歴史博物館・新田家文書一〇七三）

（表紙）

安政二年

諸郡万雑方取極重而奉窺帳

諸郡

一料紙・筆・墨代之事、諸郡共組ゟ定銀ニ御聞届被成候、依之組ゟ三ヶ年平均を以銀高取極可申上、其上ニ而御指図可被成下旨被仰渡候

能美郡

付札

嘉永五年分平均高四百四拾八匁六分七厘　嘉永五年分三百九拾目

同六年分平均高五百三拾五匁七分五厘　同六年分四百弐拾目九分弐厘

一四百目宛　苗代組　板津組　一三百五拾目　軽海組

粟津組　徳橋組

嘉永五分平均高四百七拾九匁六分九厘

同六年分平均高五百五拾八匁壱分九厘

一四百五拾目　山上組　北板津組　一百目　首坐御扶持人

料紙・筆・墨代

石崎市右衛門

菊池六郎右衛門

川合又右衛門

得能小四郎

内嶋村佐次右衛門

斉藤庄五郎

南　善左衛門

中田村源五郎

神保助三郎

結城豊次

岩城七郎兵衛

伊東彦四郎

神保嘉一郎

乾多市十郎

廣瀬太兵衛

真舘弥左衛門

五十里村庄助

荒木平助

伊藤八左衛門

杁木弥助

河合瀬兵衛

得能覚兵衛

筒井源之丞

多田六右衛門

嶋助九郎

桐木村権兵衛

三刕

御郡

御奉行所

御改作

御奉行所

右両御役所御相談之上、御付札を以御詮義之趣被仰渡候間、尚又御伺申上、御指図を請可申義有之候ハヽ、一郡切伺出不申、諸郡示合窺出シ可申旨被仰談候間、洩ゝニ不相成様御心得可被成候、以上

卯三月

得能覚兵衛

五十嵐孫作

諸郡

御扶持人中様

〆

右能美郡組ゝ料紙・筆・墨代之義、年ゝ慥成帳記も無之ニ付、平均仕兼候得共、嘉永五年・六年分大綱相調理、以来銀高取極書上申候間、前段之通定銀ニ被仰付被下候様仕度奉願上候

能美郡

河内組五百目　林組五百目
石川郡　山嶋組五百目　中奥組五百目
冨樫組五百目　米丸組五百五拾目
戸板組五百五拾目　鞍月組五百五拾目

右近来平均之上、尚又詮義仕、精誠相減申候間、定銀ニ被仰付可被下候、御郡惣様江付候分并番代之分ハ有成ニ被仰付可被下候

付札
筆・墨料ハ別ニ請不申、本文料紙之内ニ而相弁申度奉存候

石川郡

金浦組六百目　小坂組五百五拾目
河北郡　五ヶ庄組五百五拾目　英組五百目
井上組五百目　金津組四百五拾目

右近来平均之上、尚又詮義仕、精誠相減申候間、定銀ニ被仰付可被下候、御郡惣様江付候分并番代之分ハ有成ニ被仰付可被下候

筆・墨料ハ別ニ請不申、本文料紙之内ニ而相弁申度奉存候

河北郡

押水組三拾貫文　邑知組弐拾五貫文
口郡　甘田組弐拾五貫文　土田組弐拾五貫文
冨来組弐拾五貫文　熊木組三拾五貫文
一青組三拾貫文　嶋組弐拾五貫文
矢田組三拾五貫文　上浅井組弐拾五貫文

右近来平均之上、尚又詮義仕、精誠相減、此余ハ組才許ゟ指出可相弁旨取極、去ゝ年五月御達申上、御聞届請置申候間、以来も右残高ニ而定銀ニ被仰付可被下候、御郡惣様江付候分有成りニ被仰付可被下候、番代方料紙代者四百五拾目之定銀ニ被仰付可被下候

付札
手代筆・墨前ゝ過分ニ付、嘉永四年ゟ詮義之上、壱人ニ付弐拾目宛取立相渡来候得共、去ゝ年手代給銀御詮義被下候ゟ故、給銀之内ニ而相弁候様申談候得共、手代共ニ而も弁兼候故、無拠主人ゟ弐拾目相渡候組も御坐候間、壱人ニ付弐拾目宛取立相渡申度奉存候

口郡

奥郡

組ゝ料紙買入慥成留も無御坐候、三ヶ年平均出来不申ニ付、嘉永六年大小組差別も無之、中折上下七丸帋半紙六・七千枚ニ取図、壱組弐拾七貫文宛ニ而相定申義ニ御座候、筆・墨代之義者主人ゟ手代共江相渡申候、且亦御郡江付候料紙并番代方、暨金沢ニ而寄合料紙・筆・墨、其外両御出張所料紙者御郡ゟ有成ニ而取立罷在申候

付札
組ゝ料紙代之義者本文ニ申上候通、三ヶ年調理方出来不申候間、嘉永六年取極候通、弐拾七貫文ニ而定銀被仰付可被下候、手代并惣手代筆・墨料壱人ニ付弐拾目宛取立相渡申度奉存候

砺波郡

五百四拾弐匁四分弐厘　嘉永三年分
五百三拾四匁三分九厘　同　四年分
五百目弐分弐厘　同　五年分

此平均五百弐拾五匁六分八厘
一三百目　山田組
五百七拾目三分　嘉永三年分
五百弐拾五匁弐分五厘　同　四年分
六百五拾目七分壱厘　同　五年分
此平均五百八拾弐匁九厘
一三百目　太美組
四百三拾五匁壱分壱厘　嘉永三年分
五百拾匁四厘　同　四年分
三百三拾八匁八分八厘　同　五年分
此平均四百弐拾八匁壱厘
一三百目　井口組
五百三拾目壱分七厘　嘉永三年分
七百八拾弐匁五分　同　四年分
六百七拾壱匁三分六厘　同　五年分
此平均六百六拾壱匁三分四厘
一三百目　石黒組
四百六拾弐匁三分弐厘　嘉永三年分
五百六拾目七分六厘　同　四年分
六百弐拾弐匁五分五厘　同　五年分
此平均五百四拾八匁五分四厘
一三百目　蟹谷組
三百五拾六匁壱分弐厘　嘉永三年分
三百五拾目　同　四年分
三百目　同　五年分
此平均三百三拾五匁三分七厘
一三百目　野尻組
四百拾三匁六分五厘　嘉永三年分
四百六拾五匁六分　同　四年分
三百九拾九匁五分九厘　同　五年分
此平均四百弐拾六匁弐分八厘
一三百目　山見組
五百六拾七匁六分壱厘　嘉永三年分
五百八拾壱匁四分壱厘　同　四年分
五百六拾目八分弐厘　同　五年分
此平均五百六拾九匁九分五厘
一三百弐拾目　庄下組
五百拾九匁四分八厘　嘉永三年分
五百五拾四匁四分三厘　同　四年分
六百八拾五匁壱分七厘　同　五年分
此平均五百八拾六匁三分六厘
一三百弐拾目　般若組
四百七拾七匁七分八厘　嘉永三年分
四百六拾八匁五分九厘　同　四年分
五百九拾目弐厘　同　五年分
此平均五百拾弐匁壱分三厘
一三百目　若林組
三百八拾四匁壱分　嘉永三年分

三百六拾九匁　同　四年分
弐百七拾壱匁四分七厘　同　五年分
此平均三百四拾壱匁五分弐厘
一三百五拾目　糸岡組
三百拾九匁九分九厘　嘉永三年分
三百八拾壱匁六分壱厘　同　四年分
三百五拾八匁三分五厘　同　五年分
此平均三百五拾三匁三分弐厘
一三百弐拾目　宮嶋組
五百三拾壱匁九分九厘　嘉永三年分
五百六拾八匁六分四厘　同　四年分
四百九匁六分　同　五年分
此平均五百三匁四分壱厘
一三百弐拾目　五位組
四百四拾弐匁八分六厘　嘉永三年分
四百五拾壱匁四分　同　四年分
四百拾壱匁弐分壱厘　同　五年分
此平均四百三拾五匁壱分六厘
一三百弐拾目　國吉組
弐百七拾七匁壱分五厘　嘉永三年分
三百目弐分八厘　同　四年分
三百拾壱匁四分九厘　同　五年分
此平均弐百九拾六匁三分壱厘
一三百目　五ヶ山両組

〆
付札
組ゝ料紙、嘉永三年ゟ五年迄三ヶ年平均仕、猶精誠嘉永六年以来書上候通、以来定銀ニ被仰付可被下候
一手代并惣代筆・墨料壱人ニ付弐拾宛取立相渡申度奉存候、（目脱、この脱字は岡部家文書本で補う）且亦
御郡江付候料紙并番代料紙・筆・墨有成ニ而取立、金沢ニ而寄合
料紙・筆・墨も有成銀高取立申度奉存候

砺波郡

射水郡

嘉永三年・同四年・同五年平均三百弐拾目五分
一弐百六拾目　下倉垣組
同断平均三百拾六匁
一弐百六拾目　上倉垣組
同断平均三百七匁
一弐百六拾目　下東條組
同断平均三百五拾壱匁五分
一三百目　上東條組
同断平均三百五拾六匁
一三百目　二上組
同断平均弐百九拾三匁五分
一弐百六拾目　西條組
同断平均三百弐匁五分
一弐百六拾目　南條組
同断平均三百四拾九匁七分
一三百目　上庄組

同断三百五拾壱匁五分　八代組
一三百目

付札
料紙嘉永三年ゟ五年迄之平均仕候上、精誠取極、嘉永六年以来書上候通、以来定銀ニ被仰付可被下候
一手代并惣代筆・墨料壱人ニ付拾五匁宛取立相渡申度奉存候、
御郡江付候料紙并番代料紙・筆・墨有成ニ而取立申度、金沢ニ而寄金(合)料紙・筆・墨有成銀高取立申度奉存候

射水郡

新川郡

三ヶ年平均五拾弐貫八百六拾四文　大田組
一四百弐拾目
同五拾四貫弐百弐拾七文　嶋　組
一四百弐拾目
同四拾五貫六百三拾弐文　廣田組
一四百弐拾目
同五拾五貫百弐拾文　高野組
一四百弐拾目
同五拾壱貫弐百四拾弐文　上条組
一三百八拾目
同四拾六貫五百五拾七文　弓庄組
一四百弐拾目
同四拾九貫百六拾五文　下条組
一四百弐拾目
同六拾九貫拾壱文　西加積組
一四百弐拾目
同四拾七貫八百七拾三文　中加積組
一四百弐拾目
同五拾弐貫六拾七文　東加積組
一四百弐拾目
同六拾弐貫九百六拾三文　上布施組
一四百弐拾目
同三拾九貫八百四拾三文　下布施組
一三百八拾目
同四拾四貫三百八拾文　大布施組
一四百弐拾目
同四拾弐貫百拾五文　大三位組
一四百弐拾目
同四拾弐貫三百弐拾六文　五ヶ庄組
一四百弐拾目
同六拾貫四百五拾七文　三位組
一四百弐拾目

付札
組ゝ料紙、去年迄三ヶ年入用高平均仕、猶又精誠詮義仕相減し、前段之通り定銀ニ奉願候、手代筆・墨料者壱人弐拾目与仕、壱組六拾目宛定銀ニ被仰付可被下候、御郡惣様江付候料紙并番代筆・墨料者有成相調理取立申度奉存候

河北郡

一首座御扶持人手代給銀之事

八百目

〆

付札

先達而壱貫目与書上申候得共、石川同様ニ而者有之間敷段被仰渡候ニ付、相減書上申候、此通ニ而御聞届被下候様奉願上候

河北郡

能美石(郡)・口郡・奥郡

一口郡・奥郡御扶持人等出府之節、不時指懸り御用書物多、在住番代等ニ而手張候節、無拠物書雇候分料銀御郡余荷ニ仕来候ニ付、右弐郡并能美郡も右之通り被仰付置被下候様申上候所、御郡余荷之義者指止可申旨被仰渡候

付札

指懸書物仕可指上節、雇人不仕而者指支申候、三郡ハ番代手伝罷在候得共、其外御当地在住之手代無御座事故、本文之通り御聞届被下候様重而奉願上候

御付札

本文雇料壱ヶ年何度相雇、銀高何程与申義年暮ニ書出可申事

口郡ニ限り候品

一御出張所走り料銀之事

但御出張所ゟ村送り状指出候節、肝煎遠方ニ罷在小使ニ而難相弁、并御詮義物多之節呼立方(寄)是亦小使ニ而者弁得不申候得共、去ゝ年迫上浅井組御用所附番徒罷出相弁候故、去ゝ年者料銀相立不申、去年ゟ八拾目相渡度旨申上候所、御出張所走り不相当、且御出張所ゟ村送り状御指出之義無之、御呼出者等多有之、小使壱人ニ而不弁之筋有之候ハヽ、其趣委曲可申上旨被仰渡候

付札

初而奉窺、能州四郡ニ限り候ヶ条

御出張所走り料銀之支、御付札之答

御出張所ゟ被仰渡之品不指懸分者、先ゝ江荒木平助等ゟ村送り状ニ而申遣候、右村送り状を肝煎方江遣候義、小使ニ為持候而者、御役所内之御手支御座候節之状持之事ニ御座候間、左様之節別ニ人雇仕、料銀相渡可申哉奉窺候

御付札

本文申渡置候通、出張所走り不相当候条、成限小使ニ而相弁、万一指支候節者、別ニ人雇いたし料銀可相渡事

一用水方等書算料限之義分り兼候間、巨細ニ可申上旨被仰渡候

付札

嘉永三年迫用水図り方書算人相定、料銀五百目宛用水打銀を以相渡来候得共、同四年ゟ用水打銀を以渡候義者指止申候、然所組ゝ才許ゟ指出図目録之表引集、念算仕候処、図方算遠等多有之、尚亦厳初図方いたし候とも、普請出来見届之上ニ而詮義之上、図り銀減方申渡候分等有之、御扶持人扣・組才許扣并村方江私とも連印ニ而渡置候図り帳とも引合、無相違相改、其上御達之丁場帳も相調候義ニ付、一手ニ而右書算不

仕而者間遠も出来仕候ニ付、近年之処算用聞列枚野屋村傳兵衛を以右書算為仕申候、且同人義万造方等之書算も為取懸候義有之、去年之処日懸り壱日弐匁宛ニ而百七拾匁、金丸相談所ニ而之飯代九拾壱匁五分ニ相成申候、ヶ様之分年ゝ増減者御座候得共、万造ニ相渡候義御聞届被下候様奉願上候

一七拾目　一青組所口村ニ而一宮御出祭神主宿余荷

但去年ゟ指止可申旨、去ゝ年暮被仰渡候得共、去閏七月去ゝ年も一作万造ニ相立可申旨、伊藤八左衛門江御口達を以被仰渡、先達而御窺帳ニ御詮義中之品与御座候

付札

御出祭之義者押立候御祭礼ニ付、是迄御郡万造ゟ七拾目宛神主宿余荷相弁来候処、去年ゟ余荷方指止可申旨被仰渡ニ付、所口村ニ而右宿難相勤旨、神主江相断候所、寺社御奉行所ゟ御引合も御座候間、此余荷万雑ニ相立不申而者出道無御座与奉存候間、本文之通以来御聞届被下候様仕度奉存候

御付札

先達而申渡置候通、詮義中ニ候得共、当年一作七拾目御郡余荷承届候事

一百目　文化十年御扶持人役用拝借銀、御改作所江年賦返上此委曲可申上旨被仰渡候

付札

本文拝借銀之義、文化二年御改作所ゟ口郡御扶持人為役用三拾五貫目拝借仕、此内三拾貫目文化三年ゟ天保七年迄返上仕、残り五貫目天保十一年ゟ五拾ヶ年賦返上ニ御願申上、壱ヶ年百目宛御郡万造ゟ取立返上仕候、右拝借銀者御郡方困窮人為取扱拝借仕申由ニ候へ共、根元願方之義者年古キ事故、慥成義者相知不申候

口郡

一所口御役屋敷取次人壱人・手伝弐人五百目相渡来候、手伝ハ去年盆後指止申候、弐百五拾目ニ減方仕申度旨御願申上候処、奥郡同様百弐拾目ニ仕可然、併口郡ニ限り、料銀余斗無之而者指支之筋有之候ハヽ、其委曲可書上旨被仰渡候

付札

所口御役屋敷江隔日毎ニ相詰、其上奥郡与遠御用多ニ而、夜中迄も不時御用も有之ニ付、此上減方者難仕御座候、右給銀減方仕候而も相勤可申様之者者可有御座候得共、人撰詮義も仕置候事故、右詮義通御聞届被下候様仕度奉存候

口郡

能越ニ限り候品

一御郡所并御出張所詰人料銀之支、越中三郡共并口郡同様分役之子弟等為相勤、料銀五百目可相渡、併分役之子弟指支之義も有之候ハヽ、是迄通り御聞届可被成下候得共、飯料之義者御聞届難被成旨被仰渡候

付札

越中三郡分役之子弟ニ為相勤候者無御座候、就夫御郡所惣代并定詰手代飯料相渡不申、五百目之給銀迄ニ而者、才許ゝゝ手代与不釣合ニも相成、迷惑仕候間、五百目之外弐百目宛給

銀相増、飯代不相渡事ニ取極申度奉窺候
但奥郡・口郡之義者越中三郡与者御用少候ニ付、増銀不奉願候

越中三郡ニ限り候品

一四拾三匁宛　砺波郡金沢在住手代理助・五左衛門・同人悴五郎兵衛調筆物為致候ニ付料銀
但理助等越御代官納方手代ニ付、別段給銀主人ニ〻ゟ相渡申候
一百目　射水郡金沢在住手代ゟ作調筆物等為致候ニ付料銀
一百五拾目　同断兵次料銀
〆二口　但ゟ作等越御代官納手代ニ而前段同様ニ御座候

新川郡　御扶持人等出府中、不時諸書物（調筆物）〇御達（郡）余荷ゟ取立来、昨年百三拾目斗書上候所、身出シニ被仰渡候

付札
此ヶ條先達而奉窺候処、本文万雑ゟ指出候義、末四口共御聞届難被成旨被仰渡候ニ付、猶亦詮義仕候処、砺波郡越御代官納方手代之義、御郡惣様調筆方ニ召仕候義、日懸りニ仕候得者、尚更銀高ニも相成申義御座候間、何卒在来通壱人四拾三匁宛御郡余荷ゟ相渡候義御聞届可被下候、射水郡之義も今程ゟ作江者砺波郡同様壱人四拾三匁ニ仕、余荷相渡申度、兵次義当時納方も不申渡、御扶持人等出府中召仕、書物為仕候而、専日数相勤申候間、百五拾目余荷相渡申度奉存候、新川郡之義指定り候調筆人無御座候間、以来調筆召仕候節者、其品書上、余荷方仕度奉存候、砺波・射水とも金沢在住手代ニ而書物手張、無拠物書相雇、指懸り候品相弁候節ハ、新川同様御達申上度奉存候

砺波郡

一三貫目　馬下御定賃銀之外、定余荷銀前〻取極候分

付札
先達而此ヶ條書上候処、本文馬下之義如何与御附札を以被仰渡候、砺波郡津沢御蔵并戸出御蔵迄者川筋長舟相登候得とも、夫ゟ川上御蔵城端・福光・井波・宗守・福野五ヶ所之御蔵より津澤江馬下仕候義、且又枩木町蔵戸出江も馬下仕候ニ付、前〻御定賃銀御渡被下、其外一作宛増銀も被仰付候得共、馬下方下才許相立置候而、所〻江罷出候飯代并日懸り等雑用、前〻ゟ三貫目宛御郡ゟ余内相渡申義ニ御座候間、以来御郡ゟ相渡候義御聞届可被下候

一五拾目　般若組中田往還筋庄川・俣川堰留余荷
一拾五匁　國吉組四日市村ニ而小矢部川舟渡余荷
一五匁　同組岩坪村ニ而右同断
一五拾目　蟹谷組下次郎嶋村・上次郎嶋村領ニ而、小矢部川舟渡余荷

〆百弐拾目　付札
此分当時組万雑御指止ニ御座候間、右中田往還筋庄川俣川余荷等四口之分御郡余荷ニ仕候義、御聞届被下候

様奉願上候

但中田往還筋庄川ニ者舟渡有之候得共、俣川之義舟渡も無御座ニ付、村方ニ而川堰留仕、往来指支不申様ニ仕置候義ニ御座候、且四日市村・岩坪村之義も上手三日市村舟渡場手遠ニ付、廻道仕候而者、往来人難義仕候ニ付、是迄納組余内ニ仕来申候、将又下次郎嶋村等領舟渡之義ハ、四日町村ゟ江兵衛宅ニおゐて御用取捌候ニ付、杁木御郡所并小矢部川東手村ゟ江遣候砌、飛脚右村ニ而舟越渡候賃銭御郡并組余荷を以相渡来申候

射水郡

一新開方ニ付料紙并飛脚賃、是迄御郡万造方ニ而取立来申候へ共、以来新開高・同定納江割符取立候事ニ奉願候

一御場ニ而詮義者等小使雇料之事、能越申談、両人召仕可申旨被仰渡候

付札

能美郡番代内使小使之義、番代方下人ニ而相弁申趣、去暮書上置候得共、御場ニ而御詮義もの等小使并届御紙面等毎度有之、時ゝ相雇申義ニ御座候間、何卒右雇料銀壱ヶ年弐百目御渡被下候様仕度、能美郡番代之義料紙・筆・墨代給銀之内ニ而相弁、殊更地廻り同様毎日御役所江罷出、何角多端ニ相勤申義ニ御座候間、何卒前段之通り御聞届被成下候様奉願上候

能美郡

付札

新川郡之義者、岩瀬御郡所ゟ諸御役所江御達之御用状等、御役所之寄日或ハ夜中至来、着次第御達可申上分等多有之、不時ニ召仕申義ニ御座候間、此分者別段日懸り御郡余荷を以相渡申度奉存候

御付札

本文万造重而取極之趣承届候事

三ヵ条

御郡奉行

改作奉行

右御郡万雑ニ相立候品之内、重而御窺申上候間、御詮義之趣被仰渡可被下候、以上

安政二年八月

北村与十郎　得能覚兵衛
石黒源三郎　筒井源之丞
田中三郎右衛門寺　多田六右衛門
村井村孫七ゝ　嶋助九郎
五十嵐孫作　中居村三之丞
石多市十郎　石崎市右衛門
廣瀬太兵衛　川合又右衛門
瀬尾孫左衛門　得能小四郎
村井村六三郎　三清村与一郎
五十里村庄助　内嶋村佐次右衛門
南条下村金右衛門　斉藤庄五郎
荒木平助　南善左衛門
伊藤八左衛門　嶋村理三郎
杁木弥助　中田村源五郎
河合瀬兵衛　神保助三郎

岩城七郎兵衛
神田村甚　助

伊東彦四郎

三州
御郡
御奉行所
御改作
御奉行所

万造方取極重而窺帳ニ御付札を以御指図被仰渡、各様為御承知別冊写相廻申候間、早速御写取、御廻達之上、御返可被成候、以上

辰
三月廿九日　荒木平助

垈多市十郎様　廣瀬太兵衛様　瀬尾孫左衛門様
村井村六三郎様　五十里村庄助様　南森下村金右衛門様

諸郡共是迄不当之万造取立候体ニ付、嘉永六年詮義之趣有之、不当万造指止方之義申達候所、右ニ事寄セ出道無之抔与様ニ申立、用捨之義願聞候向も不少、御上ニおゐて茂変事等御入用方莫太之義、既ニ今度奥継を以被指出候、能美郡之内拝借罷在候大聖寺三十人講銀等、天保十一年返上残三ノ二令用捨候義も有之候得共、彼是御難題ヶ間敷義申立間敷筈之所、如斯何相心得候哉、上納期月ニ至り色ニ申立、致願継等方沙汰之限りニ候、依而願之筋外ニ江も指障り難取揚候、仮令組万雑相止候迚、出道無之与申義も有之間敷、拝借ニ付而も夫ニ縮方も有之義ニ候得者、是等之所於各得与被致勘考、如何ニも御難題不相願事ニ被申談、去丑年ゟ淀居候分も当年一時ニ致上納候様可被申渡候、以上

十二月廿日　御算用場
（加州御郡奉行）
内藤十兵衛殿

右写之通申来候所、拙者共詮義之趣有之、申渡方見合置、夫ニ遂詮義候処、いつれ本文之通可致上納義ニ付、相越之候条、得其意、此段申渡、夫ニ取立無相遠可致上納候、此紙面先ニ相廻シ、従落着可相返候、以上

辰
六月九日　内藤十兵衛

加州三郡
十村中

上納向淀居候分之義ニ付、別紙写之通被仰渡候間、夫ニ御承知可被成候、此状御順達、従落着平助方へ御返可被成候、以上

辰
六月十日　荒木平助
垈多市十郎

廣瀬太兵衛様等五人宛所

〔付記〕史料の調査・閲覧にあたっては、石川県立歴史博物館の皆様のご高配を賜った。記して感謝申し上げる。